

# 吉川充二賞受賞者 への祝辞

2024年2月28日

核融合エネルギーフォーラム

運営会議議長

佐和隆光

1. 核融合科学研究所の仲田資季様、同研究所の鈕持尚輝様には、この度の吉川充二記念核融合エネルギー賞優秀賞ご受賞、まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。
2. 核融合エネルギー研究の分野では最も栄えある吉川賞を受賞なさった仲田様、鈕持様の、日頃の絶え間なき研鑽と、持ち前のクリエイティビティに対し、頭の下がる思いがすると同時に、拍手喝采をお送りいたします。
3. 開会のご挨拶で申し上げました通り、今や、核融合という言葉が、脱炭素ブームの到来と相まって、政治家や経営者の口の端にのぼせられるようになり、核融合は、遠からず、来るべき脱炭素社会における電力供給の切り札となるかのような気配であります。

4. いったい何時ごろ核融合は実用化するのかと問われると、2050年頃という答えが、昨今の常識のようであります。2050年というと、パリ協定がカーボンニュートラルを成し遂げる目途として定める年にほかなりません。
5. 他方、生成AIの予期せぬ登場が、世界の電力需要を激増させる可能性は否定できません。
6. 今後、増加するであろう電力需要を、気候変動緩和のために、脱炭素電源でまかなわねばなりません。
7. 再生可能エネルギーも原子力も、供給安定性と安  
全性という点で、脱炭素電源の切り札としての資  
格を欠くと言わざるを得ません。

8. かくして、核融合の出番到来となるであろうと私は予想いたしております。
9. 本日ご受賞なされた2名の研究者に加え、本日、全体会合に対面またはオンラインにてご参集の研究者、とりわけ若手の方々には、こうした世間の要望に応えるべく、画期的な研究業績を通じて、核融合発電の早期実現へ向けて、一石そして二石を投じられることを願ってやみません。
10. 本日は、誠におめでとうございます。